

第5回 仙台市総合計画審議会議事概要

この議事概要は、事務局の責任においてとりまとめた速報であり、事後に修正する可能性があります。なお、正式な議事録については、別途ホームページに掲載しますので、そちらをご覧ください。

日 時	平成22年 8月27日（金） 16：30～17：50
会 場	仙台市役所 2階 第一委員会室
出席委員	石川委員、内田委員、大草委員、岡本委員、小野田委員、菊地委員、小松委員、佐竹委員、菅井委員、鈴木勇治委員、鈴木由美委員、高野委員、西澤委員、庭野委員、針生委員、樋口委員、増田委員、宮原委員、柳井委員〔19名〕
欠席委員	足立委員、阿部一彦委員、阿部初子委員、江成委員、大滝委員、大村委員、永井委員、西大立目委員、間庭委員、水野委員、柳生委員〔11名〕
仙 台 市 次 第	企画調整局長、総合政策部参事、総合計画課長、総合計画課主幹(2)
	1 開会
	2 議事
	(1) 仙台市基本構想・基本計画（中間案）について
	(2) その他
	3 閉会
配 付 資 料	1 仙台市基本構想・基本計画（中間案）
	2 仙台市基本構想・基本計画（中間案）概要版（案）
	3 新総合計画策定に係る市民参画事業・広報について
	4 審議会日程（案）

会議の概要

議事

(1) 仙台市基本構想・基本計画（中間案）について

・急務により欠席することとなった大村会長のメモを事務局が代読。その上で、事務局から資料1～4を基に説明し、その後意見交換を行った。

<主な意見等>

・起草委員会においては、資料1の1ページにも載っている「市民力」を前面に出していきこうとし、相当議論した。これは固まった概念ではなくて、運動して鍛えられていく概念であるとまとめた。基本構想の「1 仙台の未来へ」という冒頭の次に置くことで、個性的な構成になったと考えている。また、都市像については従来の四つの軸に肉付けを行い、都市経営については「市役所の自己変革」を盛り込んだ。力足らずなところはあるかもしれないが、新しいことを定めることはできた。これら新しい部分が基本計画以下にどう取り込まれていくかが課題だとの話になっていた。

・市民の暮らしの部会では、「重点的な取り組み」と「分野別計画」について、表現なども含めて審議を行った。ほとんどの修正意見は資料1の参考資料1にあるとおり盛り込

まれている。

- ・都市の魅力部会における意見についても中間案に反映できるものは盛り込んであるが、一部については最終案に向けて引き続き審議していくこととした。
- ・例えば、資料１の６ページ３に「『ミュージアム都市』づくり」などとあるが、これが２～４ページにある都市像や、都市経営の部分とどのような文脈的なつながりがあるのか分からなかった。同様に、例えば、同資料の９ページ２（１）は「学びを多様な活力の創造につなげる都市づくり」となっているが、この言葉だと四つの都市像とは別の都市像があるのかとの疑問が生じる。これら理念的な部分と政策の部分とのつながりについてはもう少し丁寧に記述してもらえればと思う。

基本構想と基本計画、基本計画内でのつながりが不鮮明という指摘はもっともなので、今後検討していきたい。

- ・基本構想を100万市民がどのように共有していくかが課題となるだろう。どのようにすれば市民の皆さんに伝えられるか、今後工夫する必要がある。
- ・区別計画においては北の広域拠点の玄関口である泉中央駅の扱いが弱いように感じた。セントラル自動車などの進出に関しては、７割くらいの方が泉区に住みたいとのアンケートがあるようで、それを踏まえると泉中央駅ペDESTリアンデッキの改修といったことのみでよいのだろうか。バスターミナルを拡大するなど北部拠点の玄関口として見直していくというニュアンスを記述する必要があるのではないか。
- ・資料２は本日の議論を踏まえた修正ができるのか。表紙に「平成22年８月」とあるが、市民が目にするのは９月なので、中間案がまとまってから公表するまでに時間がかかり過ぎていると受け止められかねないのではないか。

本日の議論を踏まえて、土日に校入れする。内容については会長・副会長に一任いただき、調整いたしたい。また、審議会として９月がふさわしいということであれば、修正したい。

- ・資料１の97ページに関連して、市民の参画がどのように進んだか過去と対比できるような指標、数値目標の設定が必要だと考える。そのような文言を入れてはどうか。
- ・評価は実施計画も基本計画も行うのだろうが、その辺を書きぶりの上でも明らかにするべき。

第５章の熟度は高くないと考えており、今後より具体的にするとともに精査していきたい。

- ・基本構想は従来とは違う組み方をしたため、従来型の積み上げによる基本計画と整合しないということだと思う。市役所の若手、あるいは、企画調整局の人選によるワーキングを立ち上げるなど少し違ったやり方で、基本構想と基本計画をどう整合させていくか練ってもらいたい。
- ・基本構想は、ある意味で市民の懐に入り込んでいくような内容であり、場合によっては反感を買うようなおそれもある。事務局も工夫はしているが、いろいろな方の力添えのもと浸透させていくことが重要。市民力をつくるためのプラットフォームとして設けられたメディアテークの活用も含め考えていく必要があるだろう。
- ・区別計画は各区が執筆してきたわけだが、今後は審議会において自由に審議してよいの

か。

区別計画についても審議会で議論していただきたい。

- ・審議の仕方が結構難しい。区のことは区が詳しい一方、市全体の方向性に沿って区でも検討が必要なことを審議会で指摘することもありえる。事務局が間に入って調整するということなのか。

基本的には事務局が対応することになるだろうが、区の担当者が審議会に陪席することも含め工夫していきたい。

- ・各区の地域区分図を一つの図にまとめると、境界付近で矛盾が出てくることもありえるのではないかと。少し全体の視点から確認してもらいたい。
- ・区別計画については審議会の議論を踏まえずに区役所で考えていることのみを基本にして記述しているため、新しい課題を盛り込めないようなことになる。各区で考えられる部分と市全体で考えていかねばならない部分があるので整理する必要がある。泉区の北部拠点地域についても、市のみの拠点にとどまらず北からの影響が大きいわけだが、区役所でこのようなことを認識しているかという疑問がある。
- ・文言が資料１・２を問わず、随所でバラバラになっているのが気になる。ある程度統一する作業が必要。

あえて表現を変えている部分もあるが、校正漏れもあるため見直しを図りたい。なお、区別計画については新しい取り組み方で策定に臨んだものである。審議会、地域の意見を踏まえて精査していきたい。

- ・区別計画は簡単にしか見ていないが、区の思いがこもっていて外れているとも思えなかった。区役所では予算が限られているので、やりたいと思ってもできないことが多く、その意味では区別計画については大きく手を加えるような必要はないのではないかと。10年の間にどのようにしていくかという思いが強いため、議論して詰めていこうとすると、せっかく区でつくったものが厳しいものになってしまう気がする。
- ・基本構想と基本計画とでは市民力を中心としているが、区別計画ではそれが薄いような印象がある。市民協働の言葉は散見されるが、戦略的に市民とともに汗を流してやっていくといった書きぶりになっていないところが気になる。全体の計画との連動性について今後は是非検討してもらいたい。区役所はまちづくりの現場に最も近いところなので、区別計画はより戦略的であるべき。なお、すべて区役所が中心になって行っていくというようなニュアンスが強い。市民との協働においては、中間支援的な役割は狭い地域の中でつくっていくべきだと思うので、民間ベースの中間支援機能をどうはぐくんでいくかということも含め、そのような民間との連携によって区役所もまちづくりを推進していくという考え方が必要だと考えている。

(2) その他

- ・特に意見等はなかった。